

2021年3月期第2四半期 決算説明会資料

～中期経営計画 NC2020 最終年度の進捗について～

稲畑産業株式会社

代表取締役社長 稲畑 勝太郎

2020年12月2日

1. 会社概要	… P 3
2. 中期経営計画 <i>NC2020</i> について	… P 5
3. <i>NC2020</i> 最終年度の進捗について	… P 8
4. 株主への利益還元	… P 18
5. 参考資料	… P 21

稲畑産業とは、

1. 創業1890年

1890年 京都において、稲畑染料店として発足
その後、ケミカル分野を中心に事業を拡大



稲畑染料店（京都・西陣）

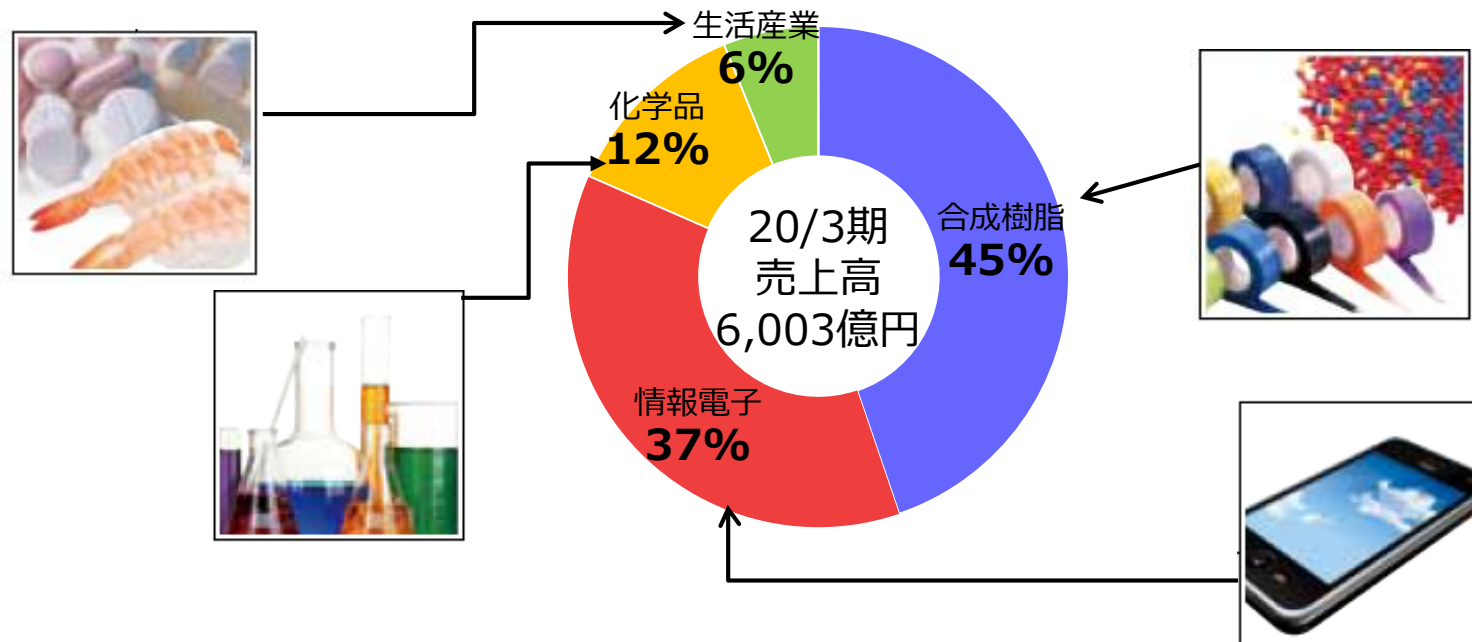
2. グローバルに複合展開する商社

世界17カ国に約60拠点を展開
市場開発、製造加工、物流、ファイナンス等の機能
商品やマーケットの専門知識・ノウハウに基づく企画・提案



3. 4つの事業分野

情報電子、化学品、生活産業、合成樹脂の
4つの分野で事業を展開



■ 中期経営計画

「*New Challenge 2020*」について
(略称 *NC2020*)

2021年3月期を最終年度とする4年間の中期経営計画

定量目標	2021年3月期
売上高	7,300億円
営業利益	155億円
経常利益	160億円
親会社株主に帰属する 純利益	120億円
ネットD/Eレシオ	0.4以下
想定為替レート	USD1=110円

【重点施策】

1 海外事業の更なる拡大と深化

2 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

- ・自動車、ライフインフラ・医療、環境・IT分野へ引き続き注力
- ・農業を含む食品分野への新たな展開

3 グローバルな経営情報インフラの高度化

- ・グループ全体最適の徹底
- ・海外事業のマネジメントの高度化と標準化

4 商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化

- ・商社ビジネス拡大を主たる目的としたマイリティ投資の実施
- ・リスク・金額を限定したマジョリティ投資の検討

5 保有資産の継続的な見直しと財務体質の強化

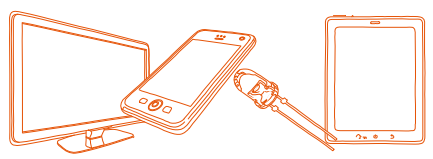
6 グローバル人財マネジメントの確立

- 中期経営計画 *NC2020*
最終年度の進捗について

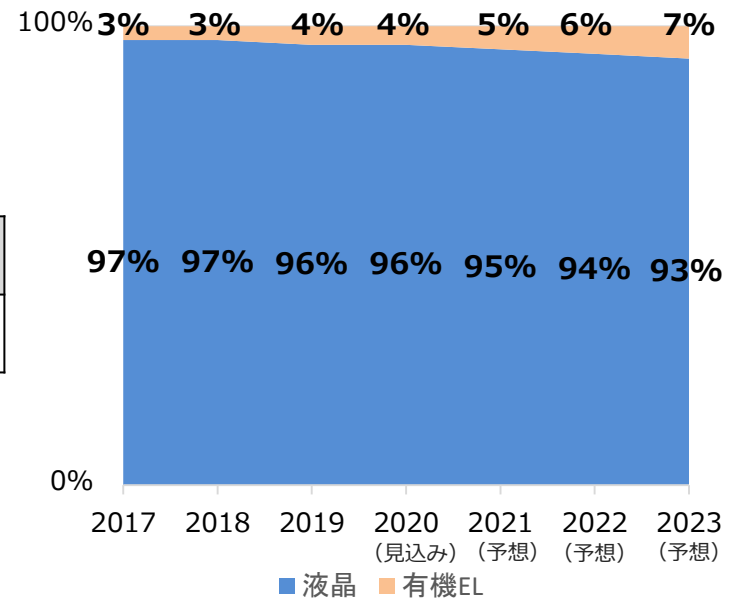
- 新型コロナウイルス感染流行下においても中国のパネルメーカーの高稼働が続く
- 液晶パネル市場は、TVの大型化を背景に面積ベースで緩やかに成長
- 有機ELパネルはスマートフォン向けに成長続くが面積ベースでは限定的
FPD全体では、液晶の面積シェア優位がまだしばらく継続

[参考] 大型液晶パネル 面積ベース推移予測

	2019年	2020年 (見込み)	2021年 (予想)
対前年比 (%)	104%	101%	104%

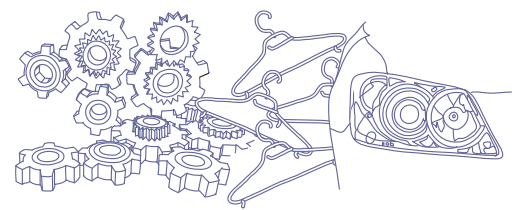
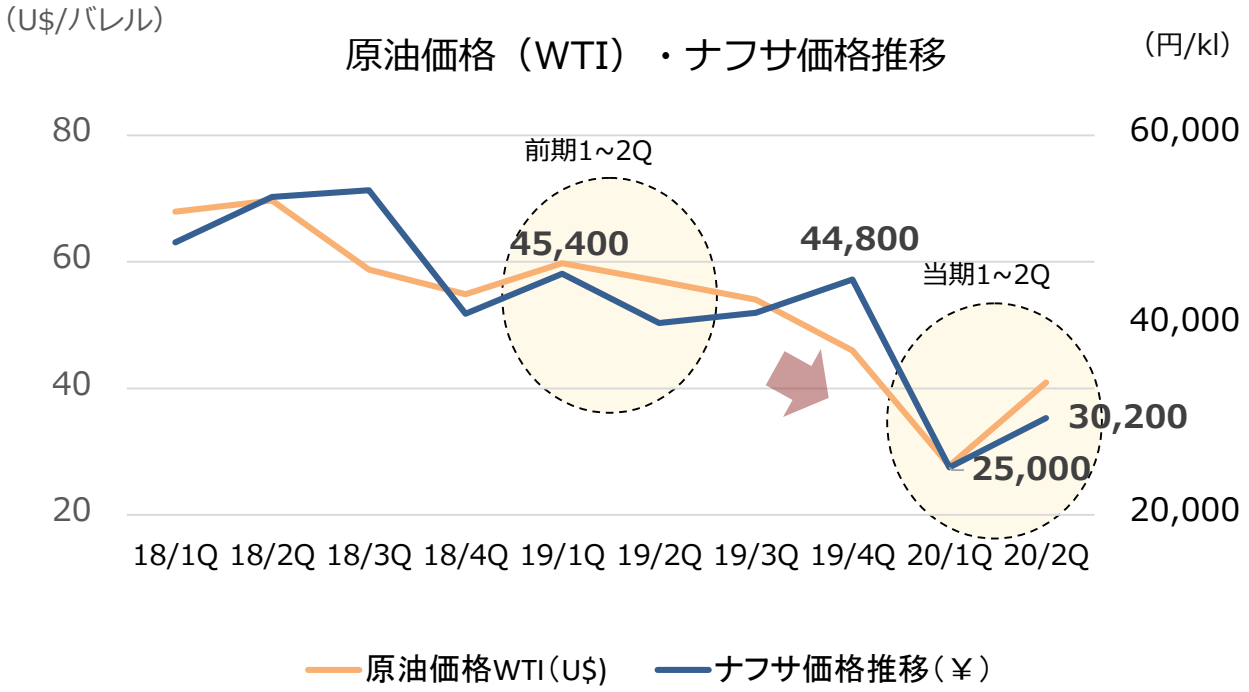


[参考] FPDにおける液晶・有機EL面積比率推移予測



(※) 参考の推移予測は、各種資料より当社推計

- ナフサ価格の低迷により、樹脂価格は対前年同期比、下落傾向
- 新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行により、1 Qはエンド需要が激減
- 2 Q後半に入り、需要は回復傾向。但し、地域やエンドユーザーにより、まだら模様
中国市場や自動車関連は、早期に回復。東南アジアやOA・建材関連などは遅れ気味



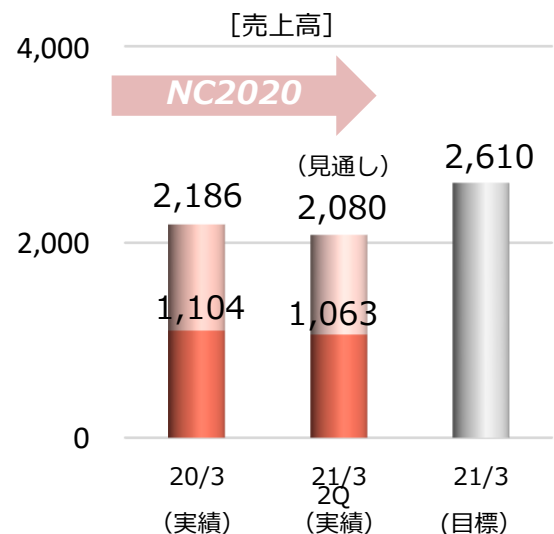
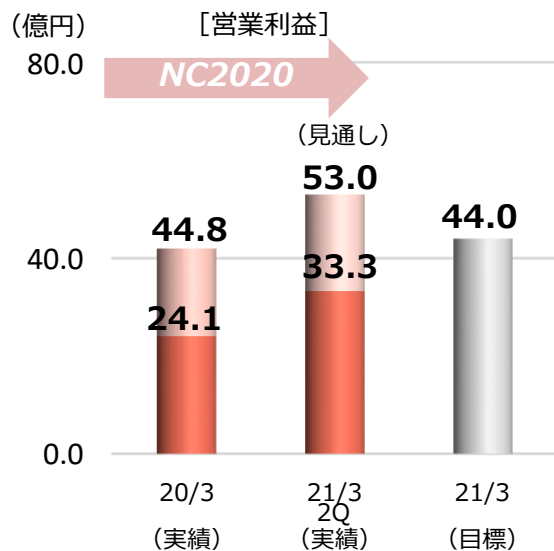
- 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、最終年度の売上高・利益の目標値達成は厳しい状況
- 財務基盤は、引き続き高い安定性を確保

	2020年3月期 2Q実績	2021年3月期 2Q実績	2021年3月期 見通し (A)	NC2020 最終年度目標 (B)	目標達成 見込み (A)/(B)%
売上高	3,076億円	2,671億円	5,500億円	7,300億円	75%
営業利益	71億円	62億円	120億円	155億円	77%
経常利益	79億円	69億円	127億円	160億円	79%
当期純利益	67億円	58億円	105億円	120億円	88%
ネットD/Eレシオ	0.20	0.08	—	0.4以下	順調
自己資本比率	45.9%	49.8%	—	—	—
為替レート	USD1=108.60円	USD1=106.93円	USD1=107.00円	USD1=110.00円	—

(※) ネットD/Eレシオ=(有利子負債-現預金)/自己資本

(※) 2021年3月期見通しは、2020年11月5日の公表値。

NC2020 各事業の進捗状況 ① 情報電子事業



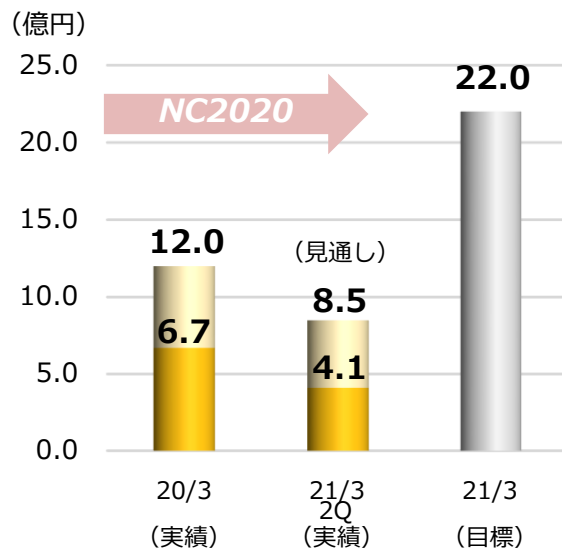
(億円)	20/3期 2Q実績	21/3期 2Q実績	21/3期 見通し (A)	NC2020 最終年度 目標 (B)	目標達成 見込み (A)/(B)%
営業利益	24.1	33.3	53.0	44.0	120%
営業利益率	2.2%	3.1%	2.5%	1.7%	—
売上高	1,104	1,063	2,080	2,610	80%

■ NC2020 営業利益目標達成への進捗 ⇒ 順調

実績・目標との差異の主な要因	コロナ 影響	営業 利益	売上高
<ul style="list-style-type: none"> 中国におけるFPD部材販売の伸長 偏光板原料ビジネスの堅調 欧州子会社での貸倒引当金の戻入 欧州子会社での太陽電池関連取引中止 低採算VMI取引の見送り リモートワークの拡大 (家庭用IJP) 同上 (オフィス複合機・プリンター) 		+	
		+	
		+	—
		—	—
	+	+	+
	—	—	—

(※) 貸倒引当金の戻入7.4億円を除いた場合の、2021年3月期2Qの情報電子事業の営業利益率は2.4%。

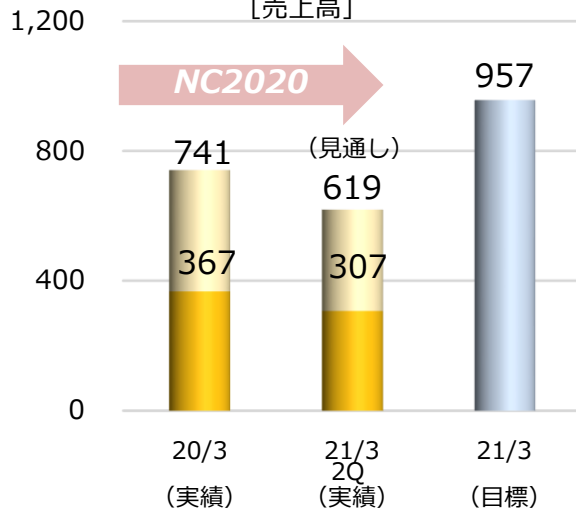
[営業利益]



(億円)	20/3期 2Q実績	21/3期 2Q実績	21/3期 見通し (A)	NC2020 最終年度 目標 (B)	目標達成 見込み (A)/(B)%
営業利益	6.7	4.1	8.5	22.0	39%
営業利益率	1.8%	1.4%	1.4%	2.3%	—
売上高	367	307	619	957	65%

■ NC2020 営業利益目標達成への進捗 ⇒ **大幅未達**

[売上高]



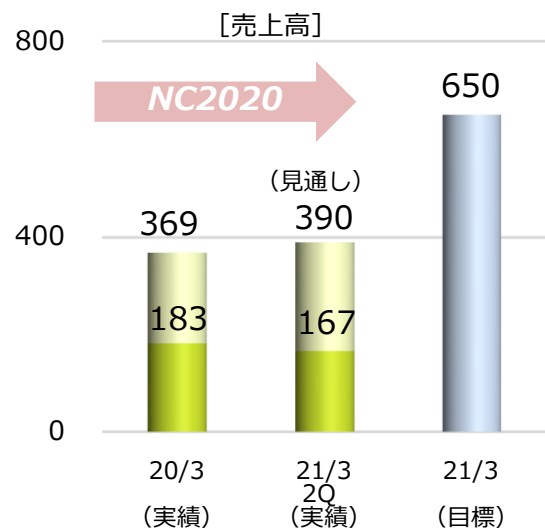
実績・目標との差異の主な要因	コロナ 影響	営業 利益	売上高
<ul style="list-style-type: none"> 旧住環境事業の低迷 旧住環境事業の輸出ビジネス進まず 放熱材製品ビジネス進まず 欧州子会社取引の見直し 建材・情報用紙・樹脂原料・塗料・インキ関連など総じて販売低調 	—	—	—

NC2020 各事業の進捗状況 ③ 生活産業事業

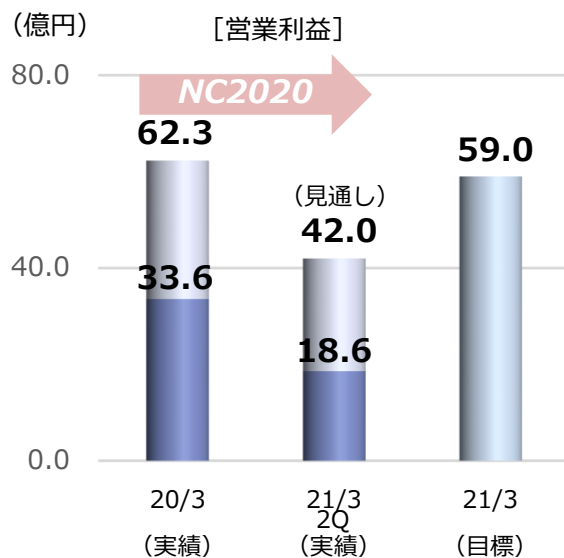


(億円)	20/3期 2Q実績	21/3期 2Q実績	21/3期 見通し (A)	NC2020 最終年度 目標 (B)	目標達成 見込み (A)/(B)%
営業利益	6.0	5.3	15.5	28.0	55%
営業利益率	3.3%	3.2%	4.0%	4.3%	—
売上高	183	167	390	650	60%

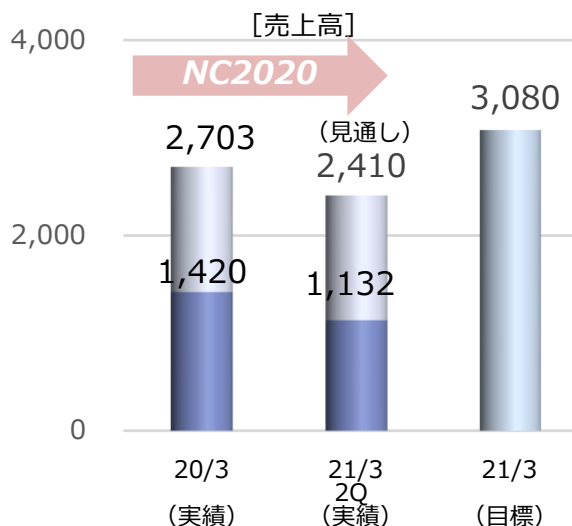
■ NC2020 営業利益目標達成への進捗 ⇒ **大幅未達**



実績・目標との差異の主な要因	コロナ 影響	営業 利益	売上高
<ul style="list-style-type: none"> 医薬原料（仕入先の供給再開遅延） 同上（外来診療自粛・インフルエンザ薬減少） 仏医薬・化粧品関連子会社収益改善 食品関連（欧州子会社での計画中止） 同上（新規ビジネスの遅れ） 同上（外食・施設向け販売低調） 同上（回転すし向け水産品販売伸長） 	—	—	—



(億円)	20/3期 2Q実績	21/3期 2Q実績	21/3期 見通し (A)	NC2020 最終年度 目標 (B)	目標達成 見込み (A)/(B)%
営業利益	33.6	18.6	42.0	59.0	71%
営業利益率	2.4%	1.6%	1.7%	1.9%	—
売上高	1,420	1,132	2,410	3,080	78%



■ NC2020 営業利益目標達成への進捗 ⇒ **未達**

実績・目標との差異の主な要因	コロナ 影響	営業 利益	売上高
<ul style="list-style-type: none"> 樹脂価格の下落 高機能樹脂の販売比率増 メキシココンパウンド拠点の苦戦 汎用樹脂の販売減少 (建材・電線) 同上 (PC・ゲーム機) 高機能樹脂の販売減少 (自動車関連) 同上 (OA・家電関連) スポーツ関連販売減少 	—	+	—
	—	—	—
	+	+	+
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—

商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化

(億円)

	18/3期 実績	19/3期 実績	20/3期 実績	21/3期 2Q実績	NC2020 18/3期～累 計
成長投資	38.6	23.1	18.5	3.7	84.1
定常投資	15.9	20.3	20.1	8.3	64.5
合計	54.5	43.4	38.6	12.0	148.6

■ 21/3期2Q 主な成長投資

- [合成] 設備等 1.7 (インフレ関連)
- 設備等 0.7 (コンパウンド関連)
- [生活] 設備等 0.5 (食品関連)

21/3期の見通しにおける各事業への感染症の影響

セグメント	分野	21/3期の見通しへの主な影響
情報電子	液晶関連	通期のTVセットの出荷予測は228百万台（前年比102%）と感染症の負の影響なし。スマホの出荷予測も13億台（同95%）と減少幅は限定的。中国での液晶パネル材料の販売は堅調を見込む。
情報電子	OA関連	テレワーク向けのIJPの特需があったものの、景気後退による産業系の落ち込みが大きい見込み。オフィスの複合機・プリンターの消耗材原料の出荷減が続く。
化学品	全般	車両向け原材料の販売は中国で堅調となり、東南アジアでも回復基調。建材、樹脂原料、パッケージ、インキ関連の販売は、底打ちしたものの、回復力は弱い。
生活産業	医薬関連	インフルエンザ薬用の中間体、命にかかわらない貼付剤等、化粧品関連の原料販売減を見込む。防・殺虫剤関連は影響なし。再生医療分野は計画の遅れを見込む。
生活産業	食品関連	外食・給食向け水産加工品の販売減、海外でのロックダウンや外食自粛による日本食材の輸出販売減を見込む。回転すしネタ用の水産品はコロナ前を上回る見込み。冷凍果実の海外販売は巣籠り需要で増加傾向。
合成樹脂	汎用樹脂関連	自動関連の国内販売は、8月以降回復基調。建築・土木・電線は、落ち込みからの回復が遅れる。日用品向けの販売は堅調を継続。食品包材は1Qに伸びるも、2Q以降一服感あり。
合成樹脂	高機能樹脂関連	OA向けの販売は、東南アジア（フィリピン、タイなど）で回復傾向。自動車向け樹脂の販売は、中国がいち早く回復、日本でも7月以降は回復傾向、米国・インドでも復調している。一方、東南アジア諸国での販売回復は遅れ気味。

■ 株主への利益還元

利益還元の方針

総還元性向 30～35%目安

1株当たり配当金：

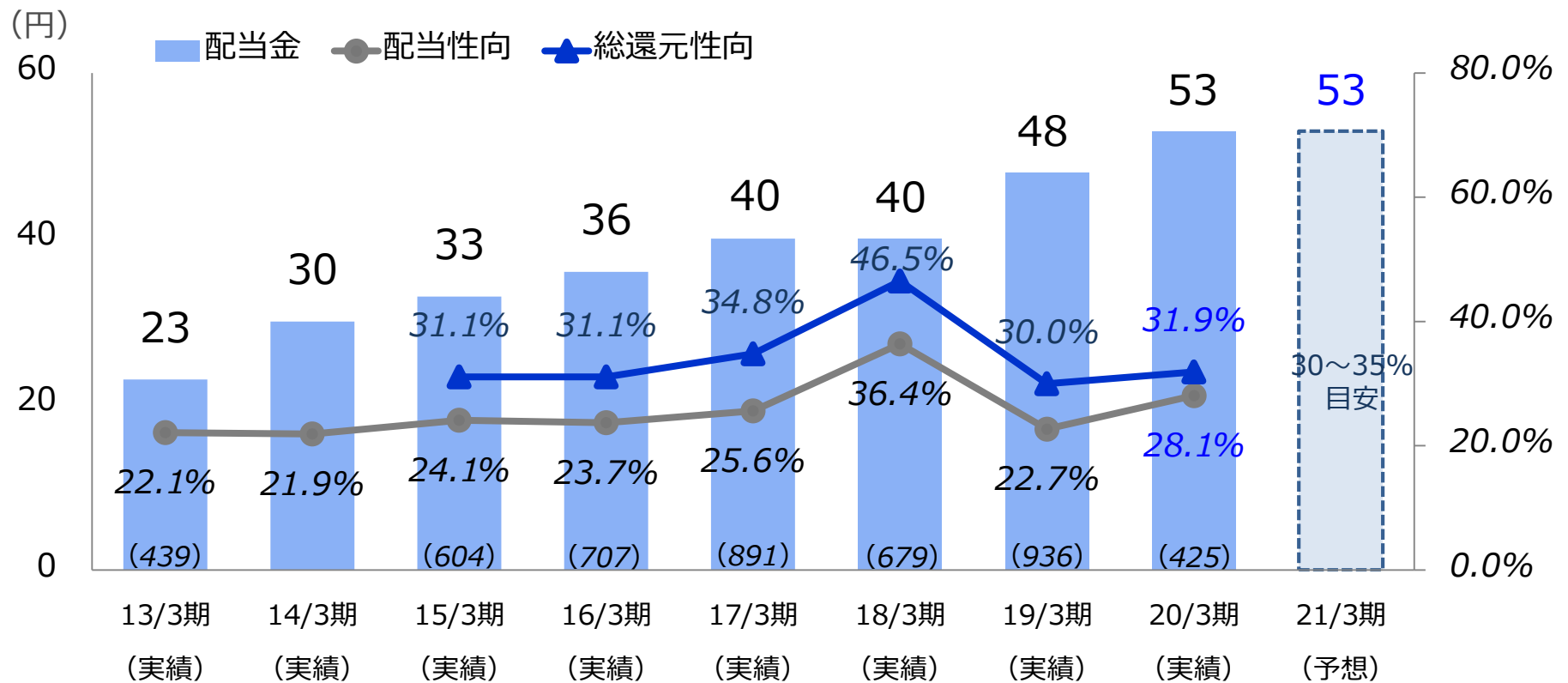
■ 2021年3月期

中間配当金 20円 (実績)

期末配当金 33円 (予想)

年間配当金 53円 (予想)

1株当たりの年間配当金と株主還元指標の推移

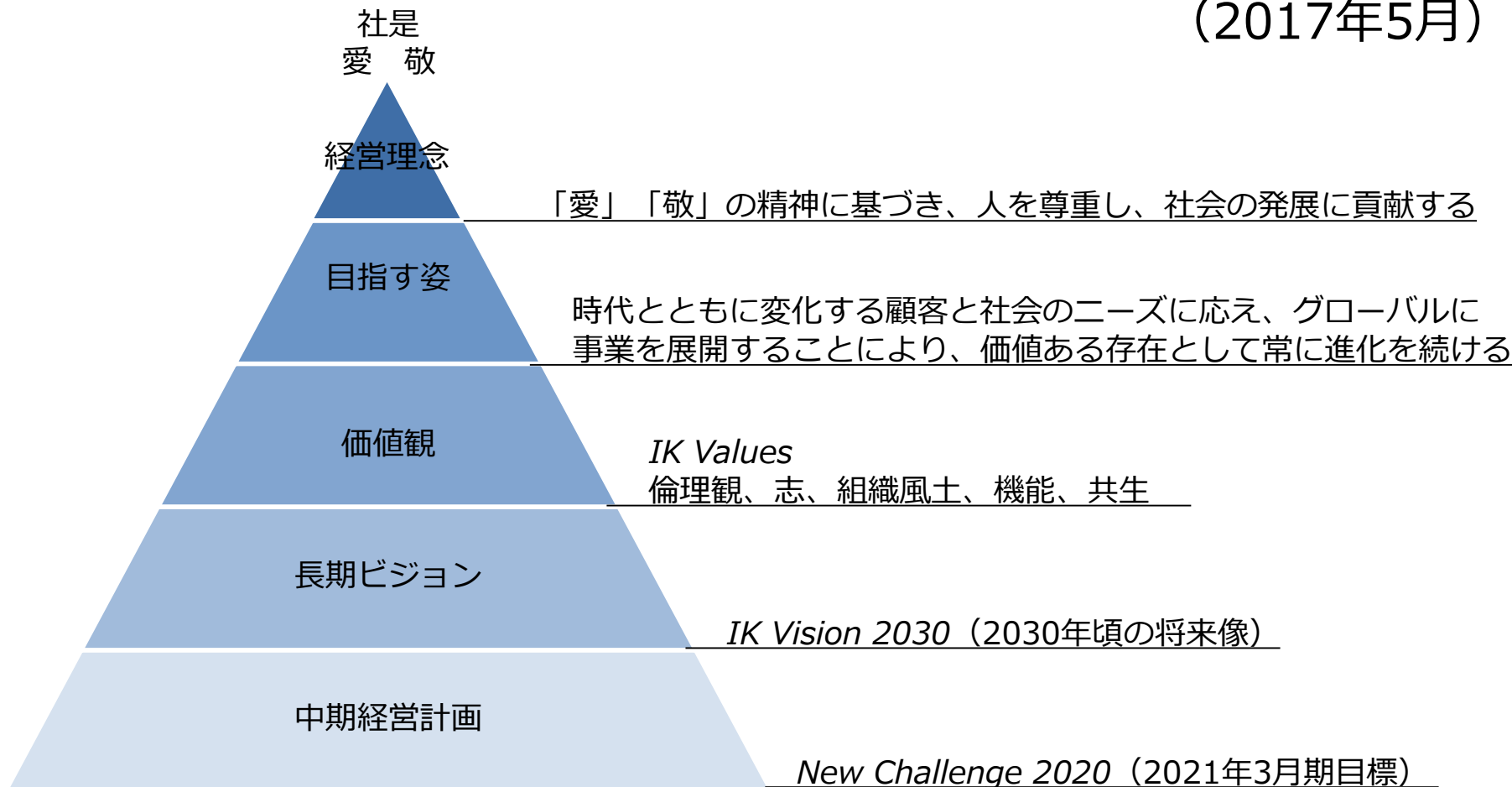


(※) 棒グラフ下部のカッコ () 内は、期中に実施した自己株式取得額 (百万円)

■ 参考資料

1.	中期経営計画「NC2020」の位置づけ	… P 23
2.	長期ビジョン「IK Vision 2030」	… P 24
3.	NC2020 事業環境・事業戦略	… P 25
4.	NC2020 セグメント別売上高・営業利益推移	… P 27
5.	売上高・営業利益推移	… P 29
6.	海外の売上高・営業利益推移	… P 30
7.	成長が見込める市場・未開拓分野への注力	… P 31
8.	海外事業の更なる拡大と深化	… P 35
10.	樹脂コンパウンドの年間生産能力	… P 37
11.	ガバナンスの強化	… P 38
12.	グローバル人財マネジメントの確立	… P 39
13.	1株当たりの当期純利益	… P 40
14.	会社概要	… P 41

◆中期経営計画策定にあたり、当社が目指す長期ビジョンを策定 (2017年5月)



◆2030年頃を念頭に、将来像を想定

機能 : 商社機能を基本としつつも、製造・物流・ファイナンス等の複合的な機能の一層の高度化を図る

規模感 : 連結売上高 1兆円以上を早期に実現

海外比率 : 70%以上

ポートフォリオ : 情報電子・合成樹脂以外の事業の比率を1/3以上に

[2017年5月策定]

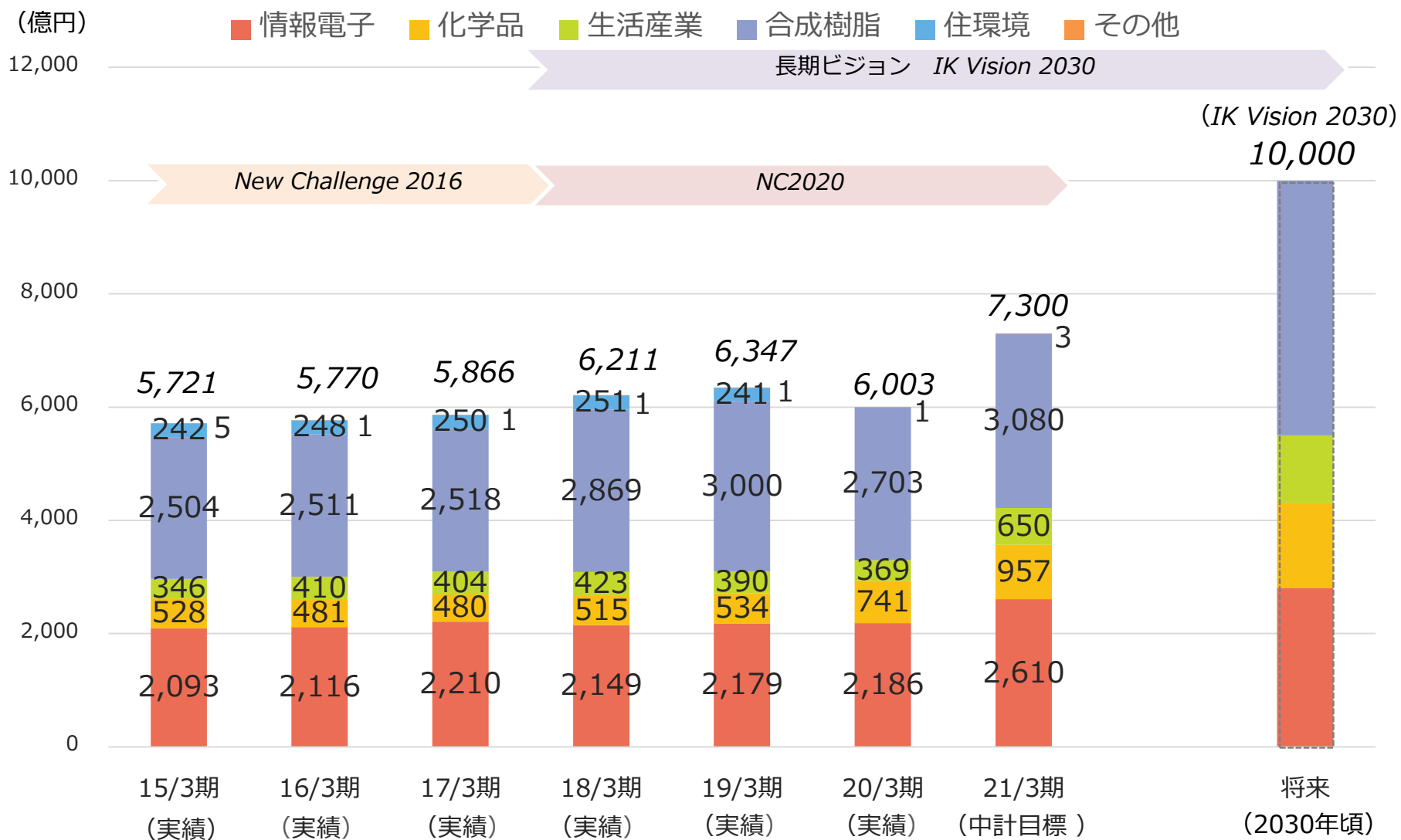
事業	事業環境
情報電子	<ul style="list-style-type: none"> 液晶関連は中期的に微増、パネル生産は中国へのシフトが続く 複写機・プリンターは成熟産業だが、産業用に成長の余地あり 太陽光発電は、日本では期待薄だが、海外で成長が続く
化学品	<ul style="list-style-type: none"> 国内の既存マーケットは変化が少なく、当社が扱える商材の市場も限定的 外資系化学メーカーが、日本市場において営業を商社に任せる動きあり
生活産業	<ul style="list-style-type: none"> 医薬は、新薬市場と再生医療が緩やかに成長 ホームプロダクツは、国内市場が飽和状況、新興国市場は拡大 食品は、先進国では健康、安全志向へ、新興国では食の消費増進む
合成樹脂	<ul style="list-style-type: none"> 顧客・サプライヤー共にグローバル化の動きが加速 グローバル対応が可能な商社への集約化選別が進む
住環境	<ul style="list-style-type: none"> 新設住宅着工件数は減少が続く見通し リフォーム市場は拡大 大手ハウスメーカー、住宅設備機器メーカーの海外進出加速

[2017年5月策定]

事業	事業環境
情報電子	<ul style="list-style-type: none"> 液晶ビジネスは、中期計画の期間中、引き続き主力事業として収益の維持を図る 長期的に、現主力事業の成長鈍化も想定して、新規ビジネスの拡大に注力
化学品	<ul style="list-style-type: none"> 自動車部品業界の更なる深堀り 自動車業界をメインとしたコーティングビジネスの拡大 外資系化学メーカーとの取り組みを強化
生活産業	<ul style="list-style-type: none"> 新薬・原料ビジネスは、有望テーマを拡充。先端医療分野に最注力 ホームプロダクツ・食品は、海外を含めた市場拡大による売上拡大を図る 食品では、生産者ポジションと加工業への進出を進める
合成樹脂	<ul style="list-style-type: none"> コンパウンド事業を武器に樹脂の販売を拡大 自動車分野と特に北米市場に注力
住環境	<ul style="list-style-type: none"> 海外市場への拡販 非住宅分野へ注力

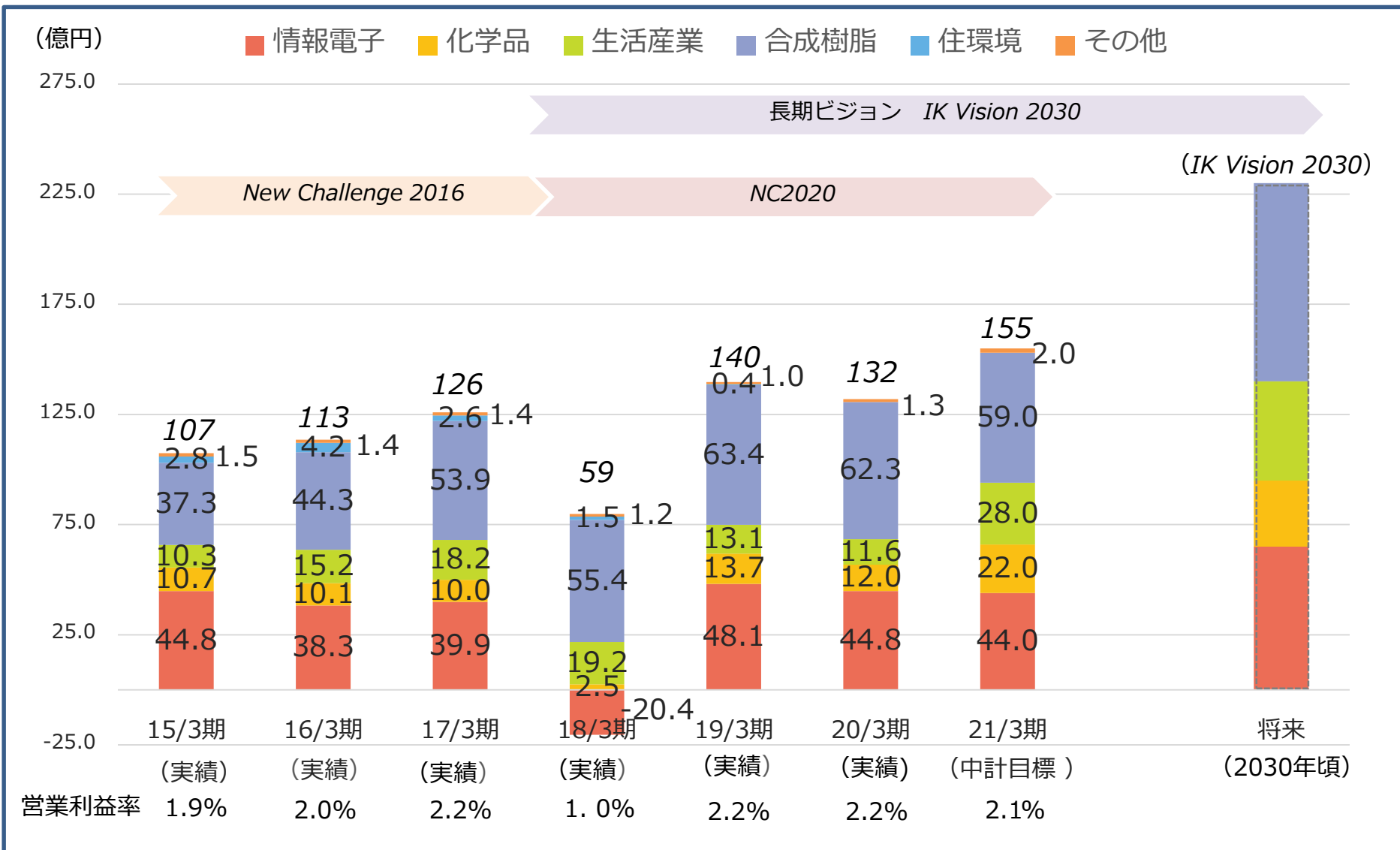
[2017年5月策定]

【参考】NC2020 セグメント別 売上高推移



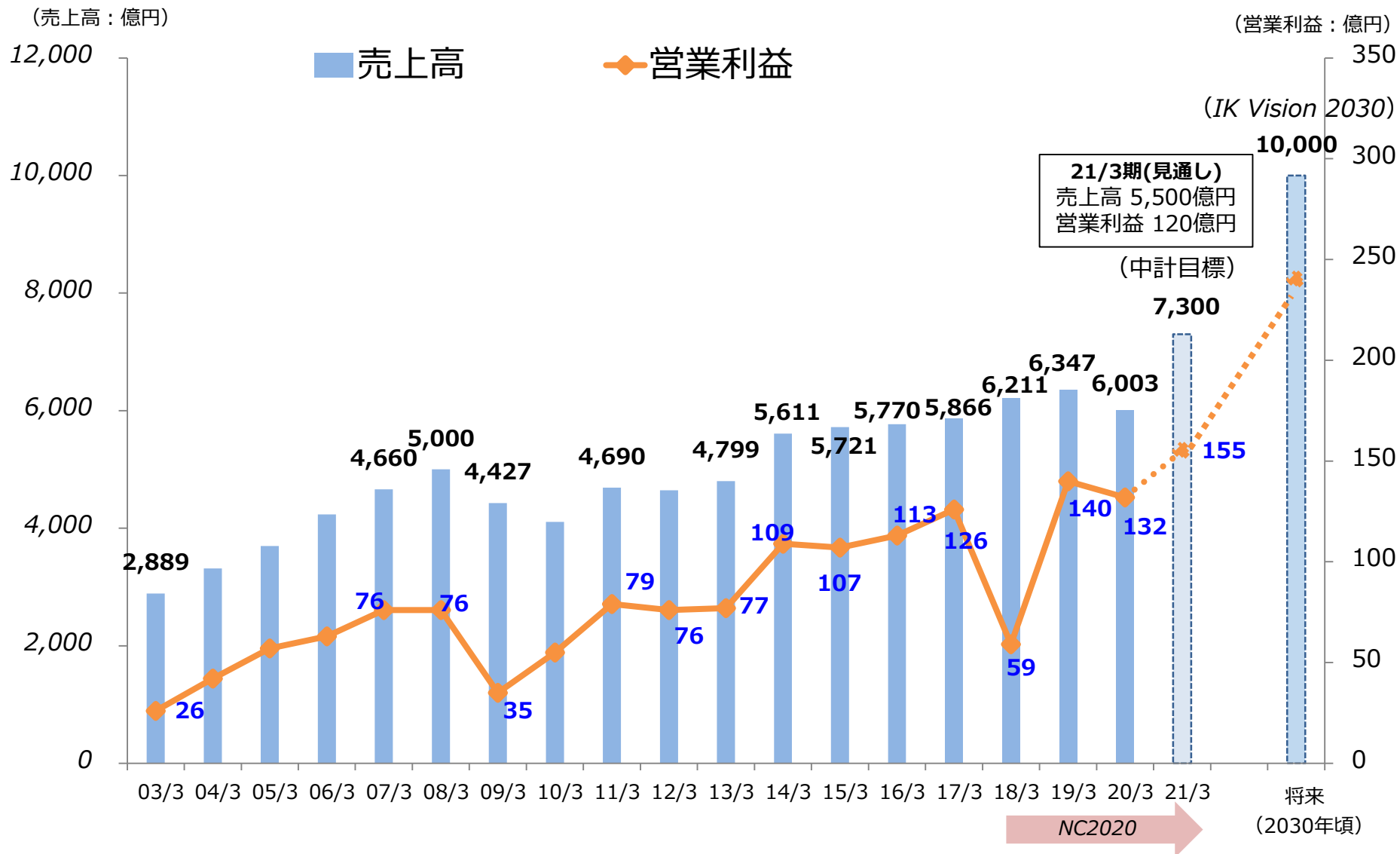
(※) 20/3期より、住環境事業は化学品事業に統合しました。

【参考】NC2020 セグメント別 営業利益推移



(※) 20/3期より、住環境事業は化学品事業に統合しました。

【参考】売上高・営業利益推移

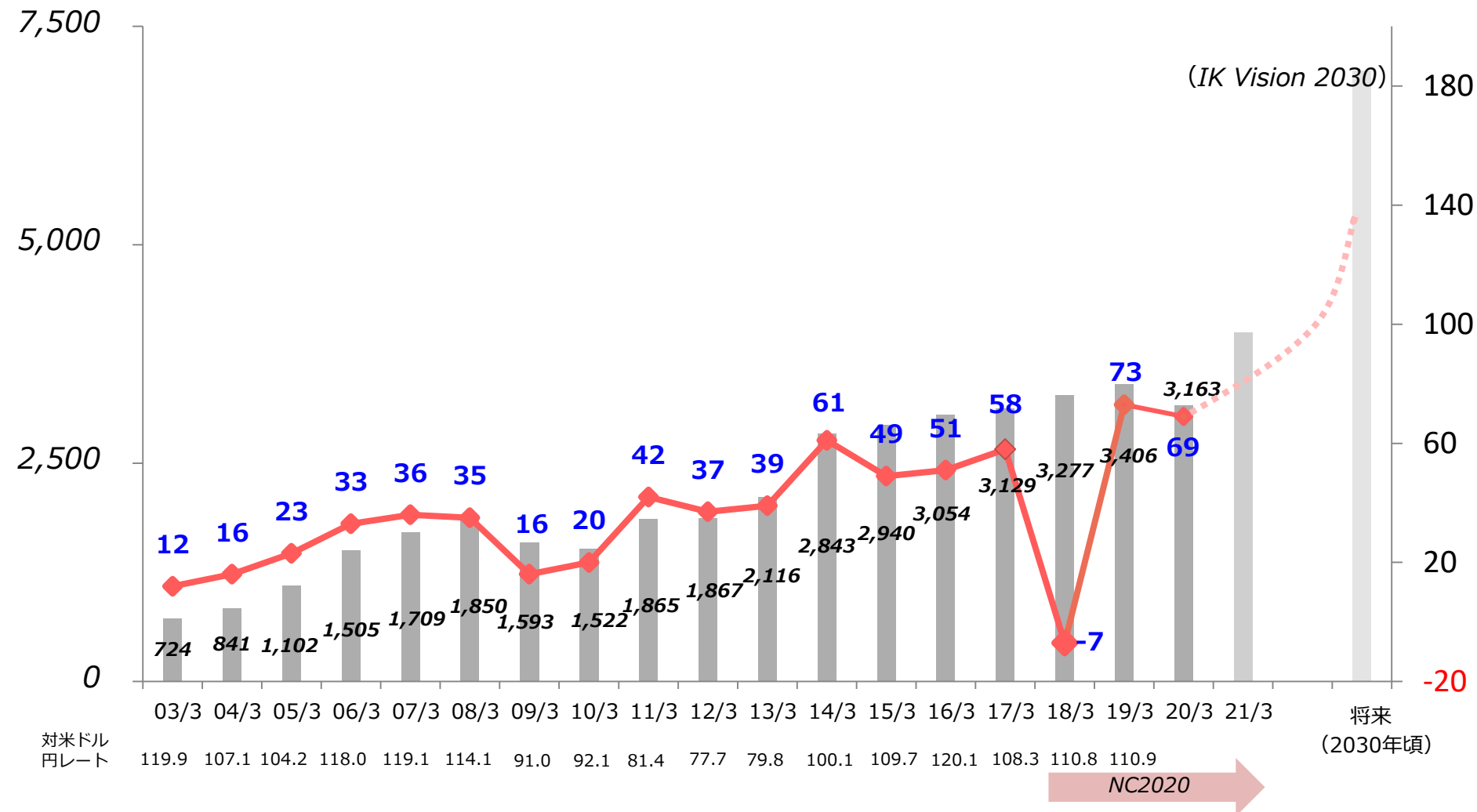


【参考】海外の売上高・営業利益推移

(売上高：億円)

■売上高 ◆営業利益

(営業利益：億円)



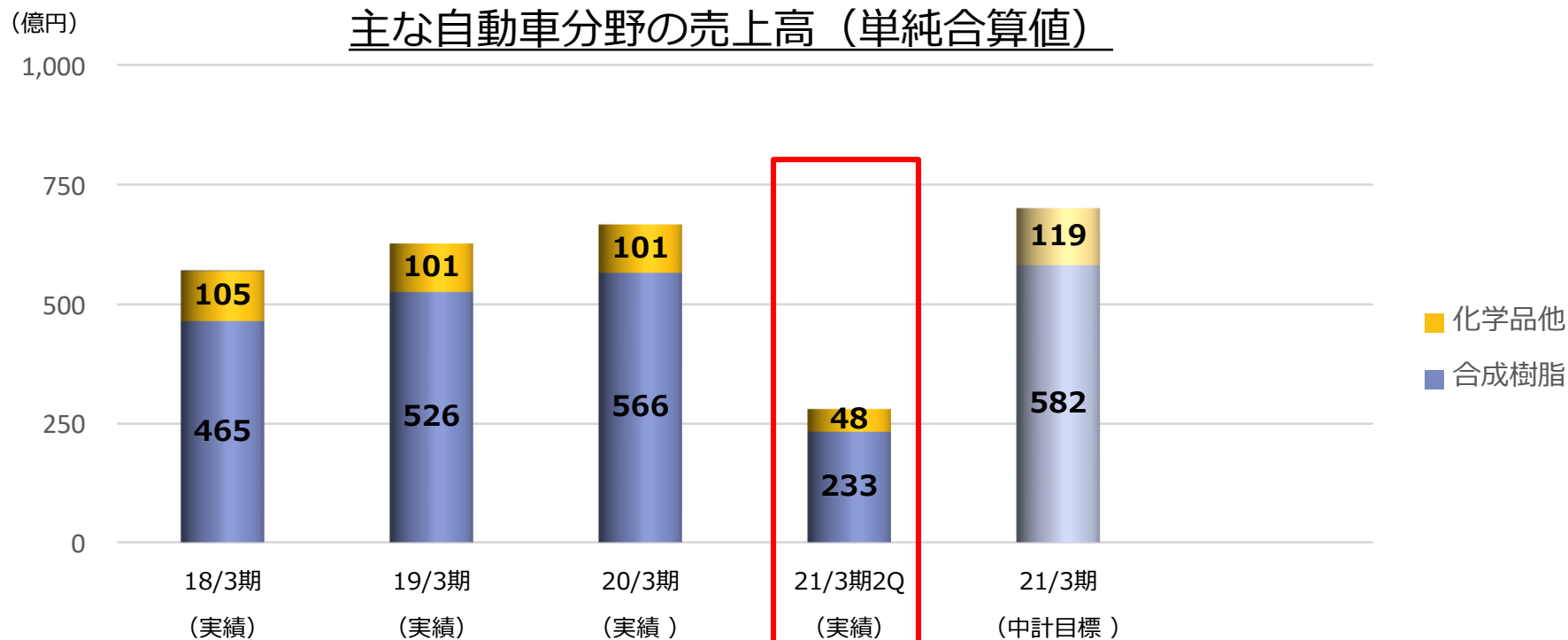
自動車分野への主な取り組み

21/3期 2Qは、感染症拡大の影響で合成樹脂・化学品の販売減速

[合成] グローバルユーザーへの樹脂の拡販。海外から国内取引へ展開

[化学] 部品・塗料原料の拡販、放熱材原料・製品の販売に注力

[情電] 加飾フィルム関連の販売

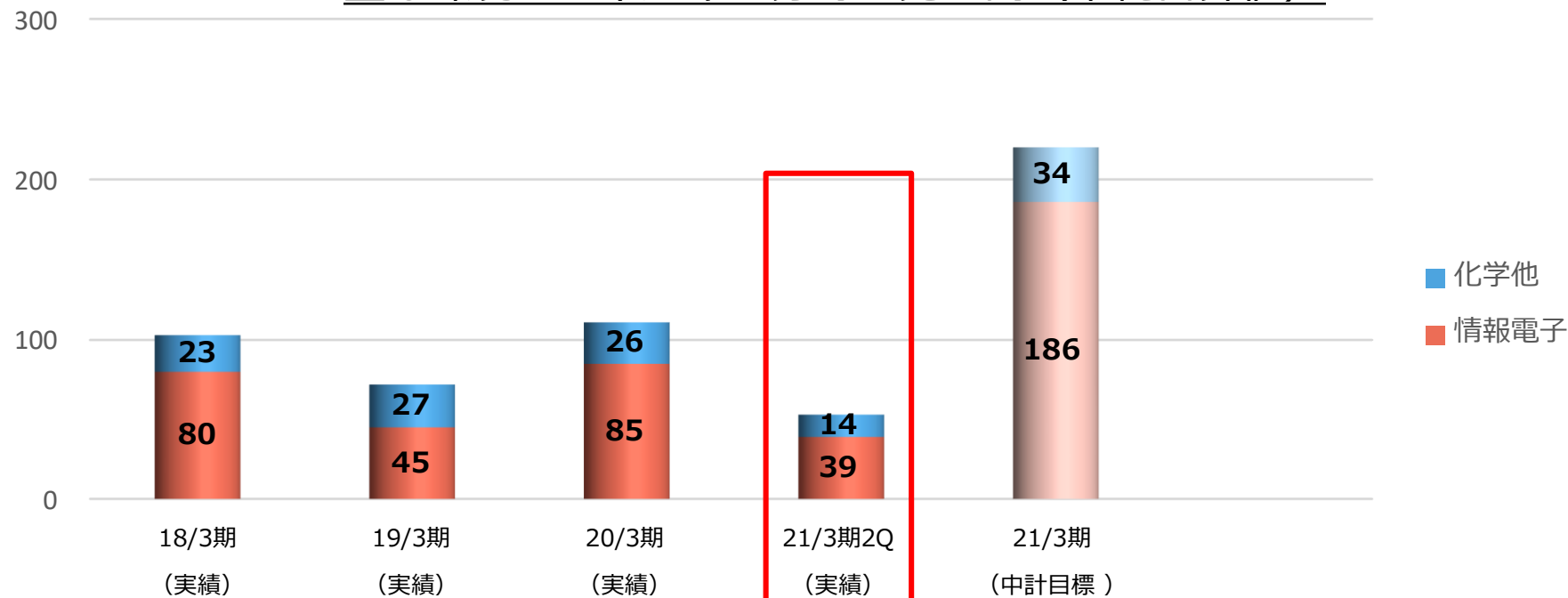


(※) 過年度の実績値について、一部最新の数値に修正しています。

環境・エネルギー分野への主な取り組み

- [情電] 太陽電池は欧州子会社での取引中止により大幅減だが、高付加価値の材料販売とシステム販売に注力
リチウムイオン電池は中国/韓国の電池メーカーへ材料拡販
- [化学] 木質チップとパーティクルボードの販売に注力

(億円) 主な環境・エネルギー分野の売上高 (単純合算値)



(※) 過年度の実績値について、一部最新の数値に修正しています。

ライフサイエンス・医療分野への主な取り組み

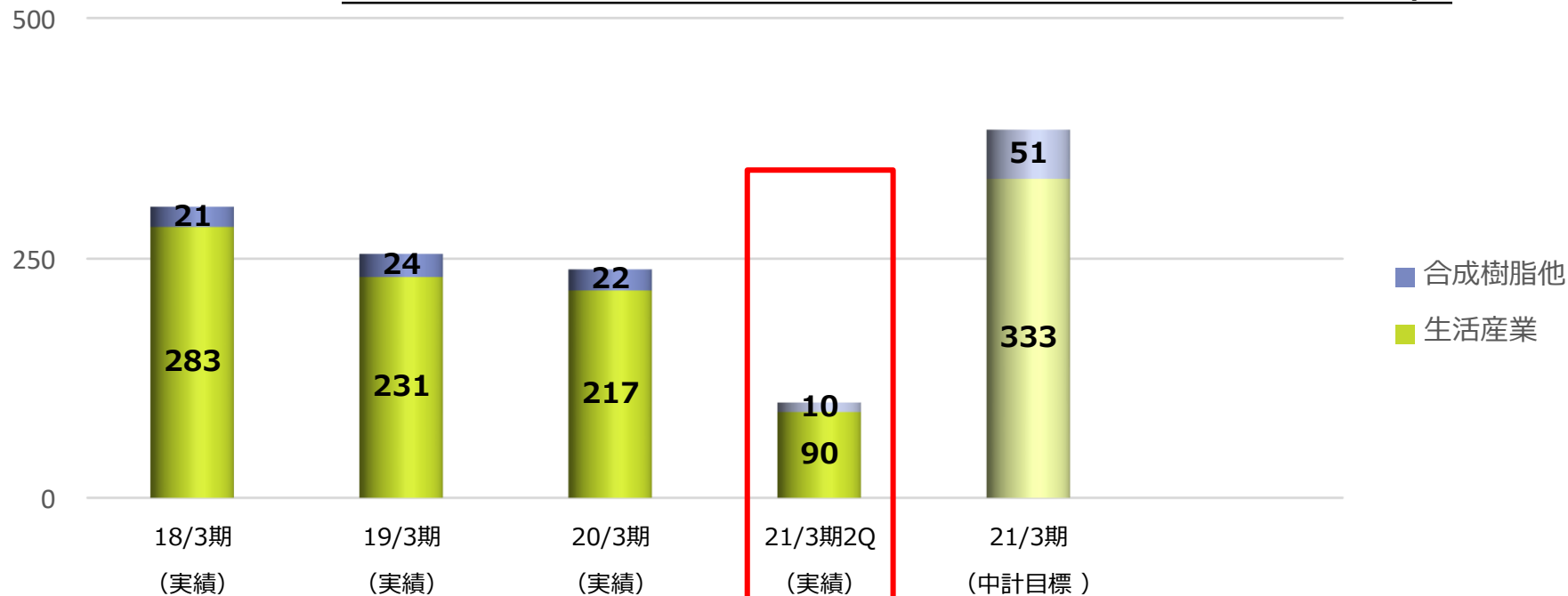
21/3期 2Qは、感染症拡大の影響で総じて販売低調

[生活] 医薬品原料（原薬・中間体）の販売を基礎に、先端医療に注力
ホームプロダクツは日本製商品を海外へ拡販

[合成] 医療機器メーカー（シリンジ用など）への樹脂の販売

(億円)

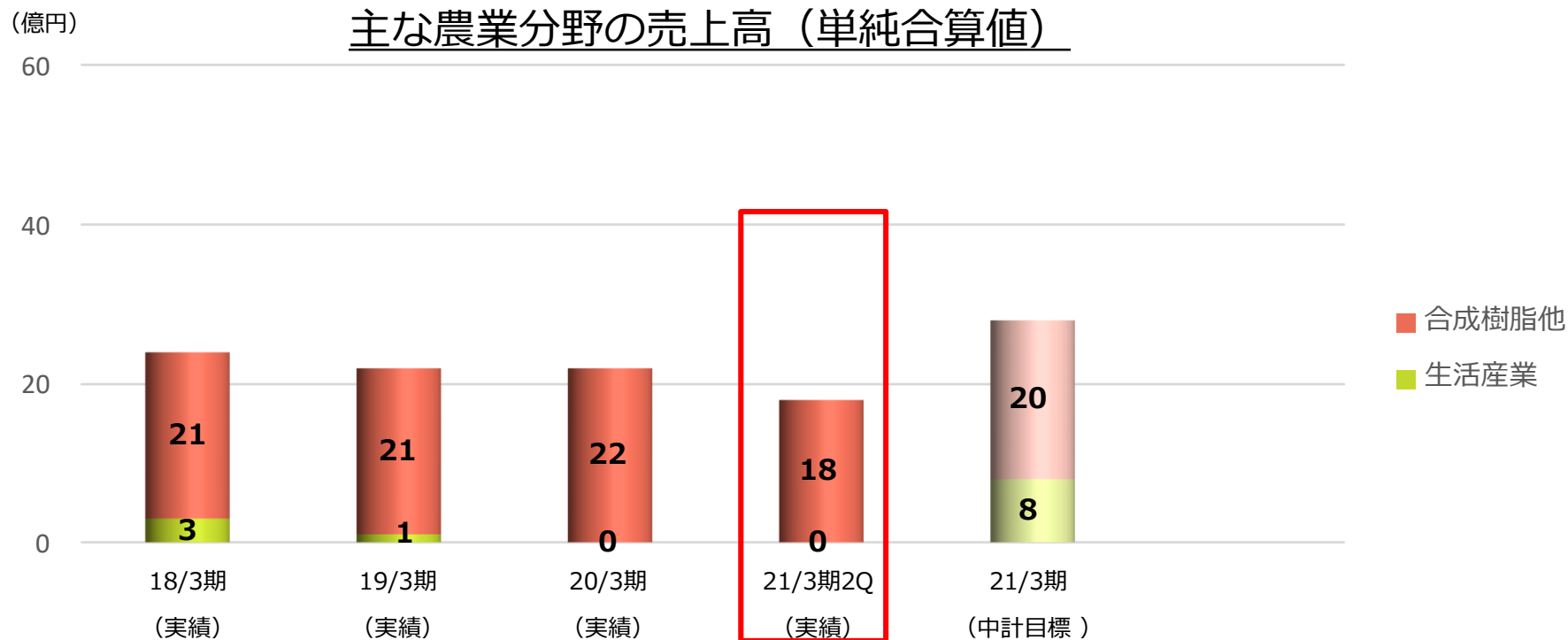
主なライフサイエンス・医療分野の売上高（単純合算値）



(※) 過年度の実績値について、一部最新の数値に修正しています。

農業分野への主な取り組み

- [生活] 北海道でのブルーベリー、ニンニクを中心とした栽培事業を推進
ブルーベリー、ニンニク共、本格的な出荷は来期以降
- [合成] 農業用フィルム（防曇など）の販売に注力
- [情電] 飼料（輸入牧草）の販売が伸長



(※) 過年度の実績値について、一部最新の数値に修正しています。(※) 冷凍品の販売は上記数値に含んでおりません。

【参考】海外事業の更なる拡大と深化

コンパウンド製造拠点の進捗状況 [メキシコ・自動車向け 🚗]

■ 2021年3月期 2Q 新型コロナウイルス感染拡大の影響
政府の指導で4,5月は、メキシコ全土の工場が操業停止。需要が減退し、
販売落ち込む。6月から操業を再開するも、需要の回復は緩やか。

2018年3月期	販売実績	6,100トン
2019年3月期	販売実績	6,700トン
2020年3月期	販売実績	9,000トン

2021年3月期2Q	販売実績	2,500トン
2021年3月期	販売見通し	7,300トン



会社名 : IK Plastic Compound Mexico, S.A. de C.V.
生産能力 : 15,000トン/年
所在地 : メキシコ中央部グアナフアト州シラオ
2013年11月稼働、2014年9月より量産開始

【参考】海外事業の更なる拡大と深化

コンパウンド製造拠点の進捗状況 [フィリピン・O A向け]

■ 2021年3月期 2Q 新型コロナウイルス感染拡大の影響
4,5月は、操業を停止。6月から操業を再開するも、感染拡大対策で各顧客の稼働状況は100%になっていない状況

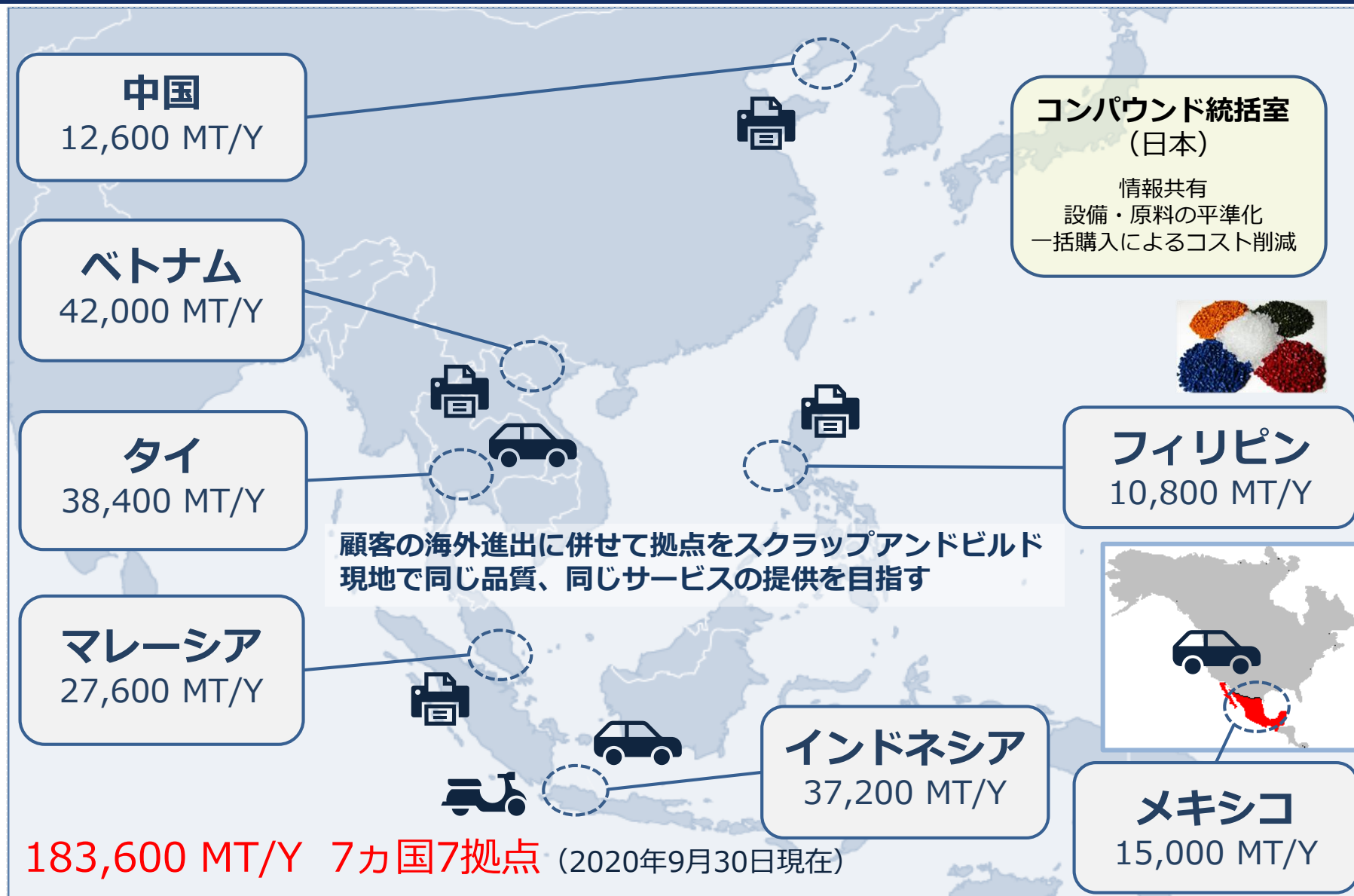
2018年3月期	販売実績	7,200トン
2019年3月期	販売実績	10,200トン
2020年3月期	販売実績	9,300トン

2021年3月期2Q	販売実績	3,700トン
2021年3月期	販売見通し	10,000トン



会社名 : IK PLASTIC COMPOUND PHILS. INC.
生産能力 : 10,800トン/年
所在地 : フィリピン ラグナ州
2014年7月商業生産開始

【参考】樹脂コンパウンドの年間生産能力



取締役会評価について

取締役会の実効性と透明性を高め、企業価値を向上させることを目的

2019年3月期

全取締役・監査役にアンケート形式による自己評価を実施
⇒ 2019年4月 評価の概要と今後の対応を開示

2020年3月期

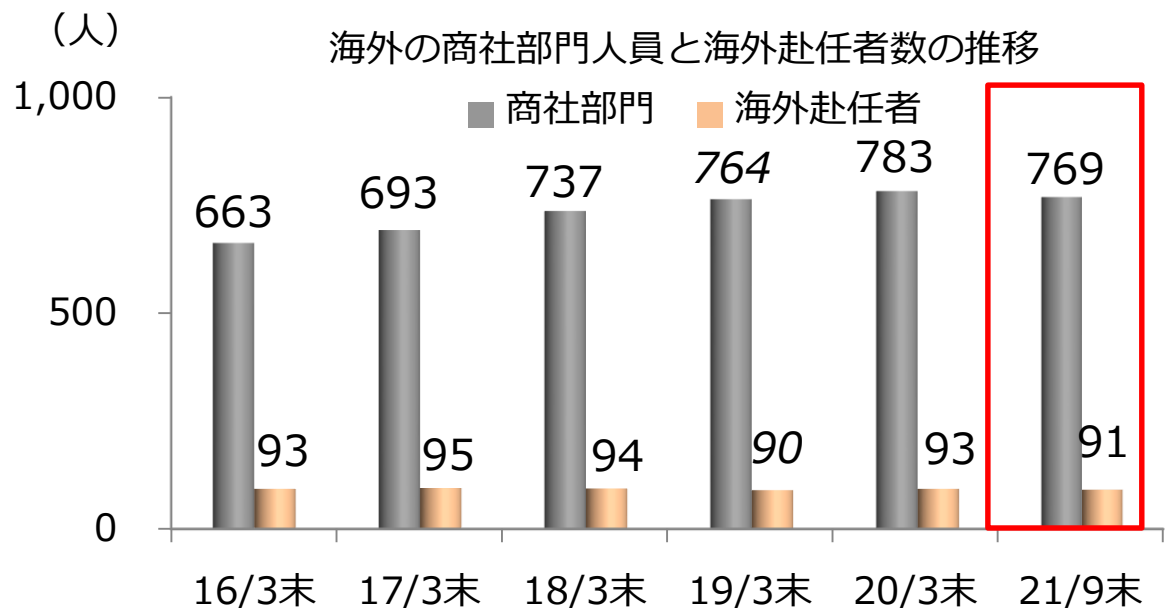
全取締役・監査役にアンケート形式による自己評価を実施
⇒ 2020年4月 評価の概要と今後の対応を開示

2021年3月期

第三者評価をアンケートとインタビュー形式により実施中

人員の充実と共に、質的な面での強化育成を加速

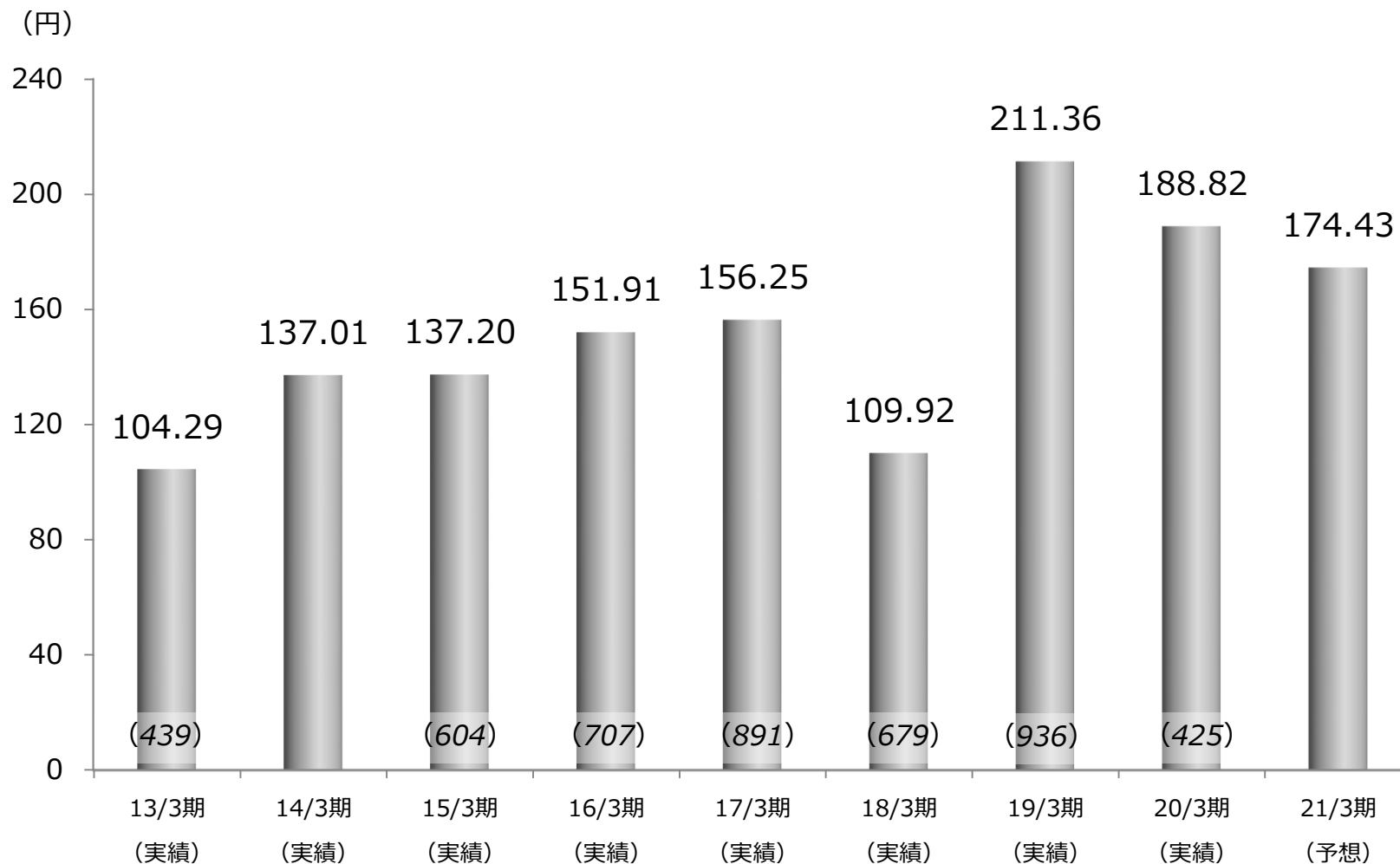
- ✓ 14カ国36拠点において、「IK Values」浸透のためワークショップを実施
700名超のナショナルスタッフが参加
- ✓ Global Staff Meetingの継続的な開催
2020年5月の開催予定は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止



【稲畑ヨーロッパでの経営理念ワークショップ】

(注) 各海外赴任者数は、翌月の1日現在の人数

【参考】1株当たりの当期純利益



(注) 棒グラフ下部のカッコ () 内は、期中に実施した自己株式取得額 (百万円)

【参考】 会社概要

会社名	稲畑産業株式会社
創業	1890年10月1日
設立	1918年6月10日
資本金	93億6千4百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 稲畑 勝太郎
本社	大阪本社/大阪市中央区南船場一丁目 15番14号 東京本社/東京都中央区日本橋本町二 丁目8番2号
従業員数	659名〔連結4,072名〕
発行可能 株式総数	200,000,000株
発行済株 式の総数	63,499,227株

(2020年9月30日現在)

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
上場市場	東証一部
証券コード	8098
単元株式数	100株
株主数	17,158名
大株主の状況 (持株比率上位3 株主と持株比率)	住友化学株式会社 22.9% 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 5.2% 株式会社日本カストディ銀行 (信託口) 2.9% みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 株式会社日本 カストディ銀行 2.9%

(注) 当社保有の自己株式数3,010,320株(ただし「株主給付信(BBT)」制度の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式100,000株を除く)については、上記表の持株比率の計算から除外しています。

□ I R に関するお問い合わせ先

稲畑産業株式会社 財務経営管理室 I R 企画部
E-mail inabata-ir@inabata.com

◆将来の見通しに関する注意事項

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。従いましてこれらのデータや将来の予測は、不確定な要素を含んだものであり、将来の業績等を保証するものではないことをご理解下さい。

◆数値の表示に関して

資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。